

— こどもの日にちなんで —

新緑の季節になり、みなさまいかがお過ごしでしょうか？
今回は、こどもの日にちなんだ話題を取りあげてみました。



県内のこどもの数（15歳未満人口）の総人口に占める割合は14.1%

- 平成23年4月1日現在の県内のこどもの数（15歳未満人口。以下同じ。）は、前年に比べて1,400人少ない約113,100人となりました。
- 男女別では、男の子が58,000人、女の子が55,200人で、男の子が女の子より2,800人多く、女の子100人に対する男の子の数は105.1人となっています。
- 年齢3区分人口と割合の推移をみると、こどもの数と割合は年々減少を続けています。

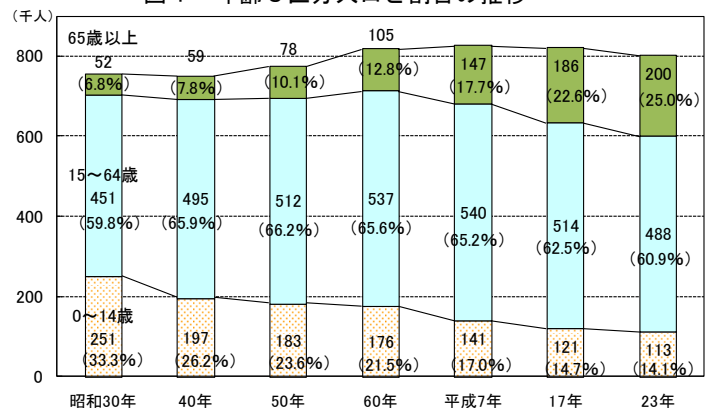
表1 こどもの数と割合

		平成23年 4月1日現在	平成22年 4月1日現在	対前年増減数
こどもの数 (千人)	計	113.1	114.5	△ 1.4
	男	58.0	58.7	△ 0.7
	女	55.2	55.8	△ 0.6
総人口 (千人)	計	803.8	805.8	△ 2.0
	男	388.8	389.6	△ 0.8
	女	414.9	416.2	△ 1.3
総人口に占める こどもの割合		14.1%	14.2%	△ 0.1ポイント

出典：県政策統計課「福井県の人口と世帯（推計）」

※数値は百人未満を四捨五入したものであるため、男女計と内訳が一致しないことがある。

図1 年齢3区分人口と割合の推移



注)平成23年は4月1日現在の推計、それ以外は10月1日現在国勢調査による

※上記の平成23年4月1日現在の「こどもの数」および「年齢3区分人口」は、平成17年国勢調査をベースに算出したものです。
平成22年国勢調査の確報公表後に、遡及して算出される年齢階級別推計人口の数値とは異なる可能性がありますので、当データの
利用にはご注意ください。

福井県は、全国と比べて塾に通うこどもが少ない

次に、最近公表された統計から、こどもに関する話題をとりあげてみましょう。

「平成21年経済センサス - 基礎調査」「平成21年全国消費実態調査」では、学習塾、補習教育^{*1}に関する結果が出ています。

○「学習塾」の数 ～「平成21年経済センサス - 基礎調査」(総務省)～

経済センサスでは、各都道府県にある事業所数を把握することができますが、その中で「学習塾」という項目があります。福井県には「学習塾」が305あり、これを児童生徒数^{*2}で割ると、福井県の児童生徒千人当たりの学習塾数は3.17箇所となり、全国で13番目に少なくなっています(表2)。

○「補習教育」の支出金額 ～「平成21年全国消費実態調査」(総務省)～

「平成21年全国消費実態調査」では、福井県の1世帯^{*3}あたり1か月間の「補習教育」^{*1}の支出金額は1,388円と全国で9番目に少なくなっており、学習塾などにあまりお金はかかっていません(表3)。

- ※1 学校教育法に定める学校の主要科目（上級の学校を受験するために必要な数学、国語、英語などの科目）の補習に必要なサービスに関するもの。ピアノ教室、英会話学校などの教養的、実用的なものは除く。3歳以上の幼児の補習教育も含む。冷暖房費も含む。
- ※2 各都道府県に所在する小学校、中学校、高等学校の児童、生徒数の合計（平成21年度学校基本調査による）
- ※3 2人以上の世帯

表2 児童生徒千人当たりの「学習塾」数

順位	都道府県	児童生徒千人当たり「学習塾」数
1位	徳島県	5.43
2位	和歌山県	5.31
3位	香川県	5.02
35位	福井県	3.17
45位	北海道	2.56
46位	山形県	2.40
47位	岩手県	2.26
	全国	3.69

資料：総務省統計局「平成21年経済センサス-基礎調査」
文部科学省「平成21年学校基本調査」

表3 1世帯あたり1か月間の「補習教育」支出

順位	都道府県	金額(円)
1位	東京都	3,863
2位	広島県	3,415
3位	三重県	3,408
38位	福井県	1,388
38位	宮崎県	1,388
45位	秋田県	853
46位	岩手県	813
47位	山形県	561
	全国	2,537

資料：総務省統計局「平成21年全国消費実態調査」



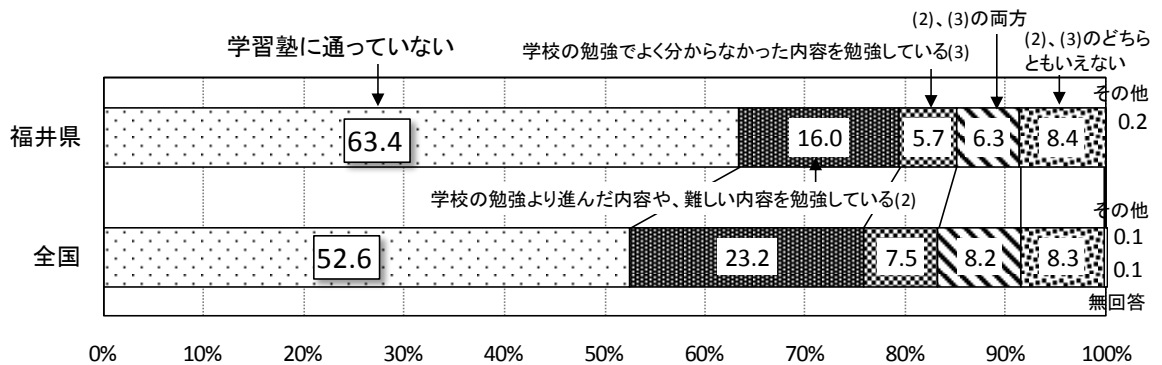
○「学習塾に通うこどもの割合」 ～「平成22年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省)～

「平成22年度全国学力・学習状況調査」(文部科学省)のアンケート結果によると、学習塾に通っていないこどもの割合は全国より高くなっています(図2)。

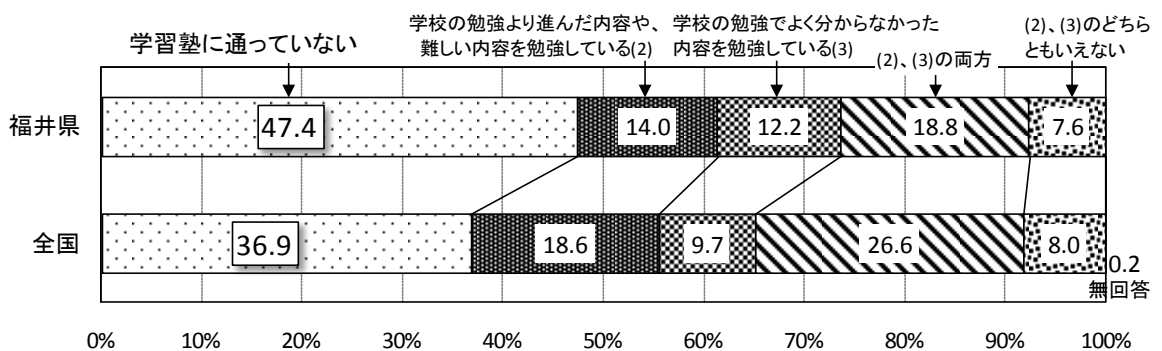
図2 質問「学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか」に対する回答結果

- 選択肢 1. 学習塾に通っていない 2. 学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を勉強している(2)
3. 学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している(3) 4. (2)、(3)の両方の内容を勉強している
5. (2)、(3)の内容のどちらともいえない

(小学6年生)



(中学3年生)



資料：文部科学省「平成22年全国学力・学習状況調査」